

千里メイプル ロータリークラブ

創立 1998年6月13日



例会日 毎週木曜日 18時30分
例会場 ル・ジャルダン
会幹 長 水島 洋
事 山本 友亮

2021-2022年度 RI テーマ

SERVE TO CHANGE LIVES
(奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために)

会長 シェカール・メータ

2022年 3月3日発行 会報 第1092号

今週のプログラム

(2022年 3月3日 第1092回例会)

【ZOOM例会】

ファイアーサイドミーティング

担当：水島 洋 会長

次週のプログラム

(2022年 3月10日 第1093回例会)

【ZOOM例会】

卓話：「お嬢さんを探せ！」

担当：柳原 健治 会員

第1091回例会（2022年 2月24日）の記録

＜会長の時間＞

水島 洋会長

皆さん、こんばんは。

本日はアクサさんようこそ。

今週の例会は木下職業奉仕委員長によるフォーラムです。

1月には地区職業奉仕委員会の卓話をお願いしましたが、本日は木下委員長の思いを語っていただければ、と思います。どうぞよろしくお願ひします。

さて、2月は「平和構築と紛争予防月間」になっています。

私が中学1年の時にキューバ危機が起こり、初めて核戦争を意識しましたが、あれから60年が経っても平和な世界とはほど遠いようです。

国際ロータリーでは毎年若干名の平和フェローを募集し、平和構築に貢献できる人材を育てています。

こうした地道な努力が実を結ぶ日が来ることを祈っています。



<本日のビジター> 2021学年度 米山奨学生 アクサ メイリアナ インタニさん

<出席報告>

会員数 (内出席免除会員 1名)	17名
本日の出席者数	11名
(内出席免除会員 0名)	
(名誉会員 0名)	
本日の出席率	68.75%
2月のホームクラブ出席率	68.75%
※4例会 全てZOOM	

<ロータリーソング>

全会員
日も風も星も
さわやかな朝だ
われらはロータリアン
いつもほほえみ
いつも元氣で
さあ出かけよう
日も風も星も
ラフラ光るよ

<幹事報告>

山本 友亮 幹事

1. 3月3日例会に例会ご出席予定でした茶橋ガバナー補佐と伊藤ガバナー補佐エレクトはいずれもご欠席との連絡がありました。
伊藤ガバナー補佐エレクトからは、来期の訪問を楽しみにさせていただきますとのメッセージを頂きました。
2. 2月26日(土)開催のIM第2組ロータリーデーには、欠席で登録されている会員様もオンラインで参加して頂けますので、お時間が許される方はご視聴下さい。
参加URLは本日クラブ事務局よりグループメールにて配信致しております。

【職業奉仕フォーラム】 木下 健治 職業奉仕委員長

1/27に地区職業奉仕委員の戸田様に卓話を頂きましたが、非常にわかりやすく、職業奉仕の現在の位置付けもわかりましたので、この時の資料を基にわたしなりの解釈をお話しさせて頂き、皆さんのご意見をお聞きできればと思います。

元々は、水島会長から地区に「最近の国際ロータリーでは職業奉仕をあまり重視されなくなった。ただでさえ難しい職業奉仕の考え方があります複雑になってきてるので、そういう話をお聞かせ願いたい。」という投げかけがあり、これは地区委員会が作成した卓話モデルにはない重要な問題なので、精一杯回答させて頂きますとのことでした。

この6年間でRIの職業奉仕に対する考えは激変しているとのことですが、2660地区で議論される機会は少ないとのことです。これは、2015-2016年RI会長ラビンドラン氏の方針で、ロータリアン同士の物質的金銭的な相互扶助が認められるようになったため、長年ロータリー運動の精神的支柱であった「事業や職業における特典を他のロータリアンに求めない」という「職業奉仕の中核精神」が消えてしまいました。

私はロータリーの組織としての活動で、関係するロータリアンから仕事として物を買ったりして利益を供与することを禁止しているのであって、仕事を頼むならよく知っている人に頼むのは世の常なので、ロータリアン同士で仕事をすることは当然にあることと思っていたので、解釈が違っていたのかと思いました。また、主婦(夫)や退職した人も会員になれるよう「ロータリアンの職業宣言」を廃止して、一般人にも通用する「ロータリーの行動規範」を創設したことが、事実上の職業奉仕の終焉であるとのことで、こんなことになっていたのかと衝撃を受けました。

さらに RI はもはや職業奉仕活動を社会奉仕活動の一部としか考えておらず、地区職業奉仕委員会は不要という考えになり、実際に国際大会での職業奉仕に関する分科会数が 2017 年は 1/73、2018 年は 0/94、2019 年は 1/98 となつたそうです。これは、RI は退職者や主婦を入れて会員増強をしたいので、ロータリアンの職業奉仕を重視したくないということです。そして職業奉仕は「実践」であり、特に自分自身の職業スキルや知識や才能をフルに使うことが職業奉仕活動と考えています。私も自分の専門分野で社会に貢献することは当たり前だと思っているので、この「実践」という考え方方は正しいと思います。

これに対して日本のロータリークラブは、ロータリアンであることに誇りを持つために職業奉仕の「理念」を大事にしたいと考えています。2660 地区職業奉仕委員会でも職業奉仕は「理念」であるとの考えが主流ですが、ガバナーエレクトより「職業奉仕が『理念』であることは理解できるが、時代の変化を酌んで欲しい。『理念』だけに固執しないで欲しい。」とあったそうで、私はこれが「理念」を放棄するということなら違うと思いました。

戸田様のお父様がかつてガバナーの時に「これからも大事にしたい職業奉仕の理念」として、最もよく奉仕するものは最も多く報われる、企業の利益だけではなく、取引に関わる全てに「利他心」を持って当たれば永続的な発展がある、とうたわれたそうです。まさにその通りで、松下幸之助氏も稻森和夫氏も同様のことを言われているので、「理念」は間違いなく必要だと私は思います。

理念があってこそその実践です。理念がなければ損得だけになってしまい、おかしなことになると 思います。私の生命保険という仕事も目に見えないものを扱っているので、理念が重要であり、理念がないと長く続けられない業界です。100 年以上続いている企業は、必ず「家訓(企業理念)」があり、それを今でも守っていて、商売の形態は時代に合わせて変わっているので「不易流行」です。近江商人の「商売の心得十訓」もまさにそうで、ロータリーが他の奉仕団体と異なる大きな特徴は、職業奉仕という概念を持っていることであり、職業奉仕こそロータリアンの大きな誇りであり、職業に倫理観を持っているので、ロータリアンは世間から信頼され、これが日本の企業経営者の理念と一致し、ロータリーは日本で受け入れられたとのことです。やはり理念があってこそその実践です。

ただ、現在日本のロータリークラブの会員は減少の一途で、これは 3K(高齢化、高コスト化、硬直化)が原因だとしています。これを打開するために、戸田様は職業奉仕の実践として、自分たちの専門知識を「出前授業」として外部(新聞社カルチャーセンター等)と連携して一般の人向けにセミナーを されているとのことで、この活動でロータリー会長賞を受賞されたそうです。私たちのクラブでも過去の卓話を調べて頂き、出前授業ができるのではないかと提案を頂きました。ご提案も有難いことですが、何よりもそこまで調べて頂いて、卓話に臨んで頂いたことが嬉しかったです。

数名の皆様に「職業奉仕に理念は必要か否か」とお聞きしたところ、皆さん「理念は必要」ということでした。全員に聞けませんでしたが、皆さんそう感じいらっしゃると思いました。